


ベルコート®
(BELLKUTE WP)

登録番号 第18821号

種類名 イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤
iminocadine tris (albesilate)

性状 類白色水和性粉末 45 μm以下

有効年限 5年

有効成分 イミノクタジンアルベシル酸塩 40.0%

PRTR 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (PRTR・1種) 40.0%
ドデシル硫酸ナトリウム (PRTR・1種) 3.0%

毒性 普通物 (毒劇物に該当しないものを指す通称)

包装 (100g×25袋) × 4箱、500g×20袋

■特長

- 幅広い抗菌スペクトラムを有し、多くの病害に対して優れた予防効果があります。
- 作物に対する安全性が高く、登録作物の多い使いやすい薬剤です。
- 細胞膜に作用し、膜機能や脂質合成を阻害します。また、他剤と作用点が異なるため各種の薬剤耐性菌に対しても高い効果があります。

■適用病害名及び使用方法

(2017年9月27日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	使用方法	
りんご	黒星病	2,000	200～700	収穫前日まで	6回以内 ただし、開花期以降 散布は3回以内	8回以内 液剤および水和剤 は合計6回以内 (開花期以降 は3回以内)、 塗布剤は2回以内	散布	
	斑点落葉病	1,000～2,000						
	輪紋病 褐斑病 すす点病 すす斑病 黒点病	1,000						
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病	1,000～1,500		収穫14日前まで	5回以内	5回以内 塗布剤は2回以内 液剤は1回以内		
	黒星病	2,000		収穫前日まで	3回以内	3回以内 休眠期は1回以内		
灰星病 うどんこ病 ホモプシス腐敗病 すすかび病 果実赤点病	1,000～2,000							
おうとう	灰星病	1,000		収穫7日前まで	2回以内	2回以内		
みかん	灰色かび病	1,000～2,000		収穫前日まで				3回以内
	そうか病	1,000						
かんきつ (みかんを除く)	灰色かび病	2,000		収穫14日前まで	3回以内	3回以内		
かき	炭疽病 落葉病 うどんこ病 灰色かび病 すす点病 黒星病	1,000～1,500						
	果実軟腐病 灰色かび病 貯蔵病害 (灰色かび病)	1,000	収穫前日まで				5回以内	5回以内

殺菌剤 ベルコート水和剤

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	使用方法
マンゴー	炭疽病	1,000	200～700	収穫75日前まで	2回以内	2回以内	散布
あけび(果実)	うどんこ病	3,000		収穫14日前まで			
小粒核果類(うめ、すももを除く)	黒星病 灰星病 灰色かび病 環紋葉枯病	2,000	200～700	収穫30日前まで	3回以内	3回以内	
うめ	すす斑病 枝枯病						
すもも	灰星病	1,000～2,000	収穫3日前まで	3回以内	3回以内		
びわ	灰斑病 灰色かび病	1,000	収穫7日前まで				
キャベツ	菌核病		1,000	収穫28日前まで	4回以内	4回以内	
すいか	菌核病 炭疽病	1,000		収穫前日まで			
メロン	うどんこ病 つる枯病		1,000～2,000	150～300	収穫7日前まで	5回以内	
かぼちゃ	うどんこ病	2,000				収穫前日まで	
ズッキーニ	褐斑病	2,000～4,000	150～300	収穫3日前まで	5回以内	5回以内	
きゅうり	灰色かび病 うどんこ病						
うり類(漬物用)	炭疽病 つる枯病	3,000	150～300	収穫前日まで	3回以内	3回以内	
なす	すすかび病 灰色かび病 うどんこ病						
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	1,000	150～300	収穫7日前まで	5回以内	5回以内	
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病			収穫前日まで			
ねぎ	さび病 黒斑病	2,000	100～300	収穫30日前まで	3回以内	3回以内	
にんにく	葉枯病			1,000～1,500			収穫3日前まで
にんじん	菌核病	1,000	150～300	収穫14日前まで	5回以内	5回以内 (種子粉衣は1回以内、無人ヘリ散布は2回以内)	
	黒葉枯病	500～1,000					
		-	乾燥種子重量の0.5%	は種前	1回		種子粉衣
トマト	葉かび病 灰色かび病	3,000～6,000	150～300	収穫前日まで	3回以内	3回以内	散布
ミニトマト		6,000		2回以内	2回以内		

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ /10a)	使用時期	本剤の使用回数	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	使用方法
レタス	灰色かび病 菌核病	1,000～ 2,000	150～ 300	収穫30日前 まで	3回以内	3回以内	散布
いちご	炭疽病	1,000	200～ 300	育苗期 (定植前)	5回以内	10回以内 〔育苗期は5回以内 本圃では5回以内〕	
	うどんこ病	4,000	150～ 300	収穫前日 まで (生育期)	5回以内	3回以内	
豆類(種実) (ただし、だいず を除く)	炭疽病 褐斑病	1,000		収穫7日前 まで	3回以内		
だいず	紫斑病	—	乾燥種子 重量の0.5%	は種前	1回	4回以内 〔種子粉衣は 1回以内〕	種子粉衣
ばれいしょ	夏疫病	500	150～ 300	収穫7日前 まで	5回以内	5回以内	散布
やまのいも	葉渋病	1,000～ 2,000				—	
	青かび病	—	種いも 重量の1%	植付前	1回		種いも 粉衣
てんさい	斑点病 褐斑病	1,000	150～ 300	収穫14日前 まで	4回以内	4回以内	散布
小麦	赤かび病	1,000～ 2,000	60～ 180	収穫21日前 まで	3回以内 〔出穂期以降 は1回以内〕	4回以内 〔種子への処理は 1回以内、散布 および無人ヘリ 散布は合計3回 以内、出穂期以 降は1回以内〕	
						茶	
たばこ	赤星病 うどんこ病 灰色かび病	1,000～ 2,000	100～ 180	収穫10日前 まで	3回以内	3回以内	
樹木類	炭疽病	1,000	200～ 700	発病初期			

△ 効果・薬害などの注意

1. 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
2. りんごに使用する場合、芽出し2週間過ぎから落花後25日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけてください。
3. なしに使用する場合、西洋なし品種ルレクチエではさび果を生じるので使用しないでください。
4. ももに使用する場合、缶桃14号などの缶詰用品種では葉に薬斑を生じるので使用しないでください。
5. おうとうに使用する場合、着色始期から中期の散布では薬害(着色障害)が生じるおそれがあるので使用しないでください。
6. かきに使用する場合、西村早生では葉に薬斑を生じるので使用しないでください。
7. メロンに使用する場合、交配2～3日前から交配2週間後までの幼果の時期には、薬害を生じるおそれがあるので、この時期の散布はさけてください。また、若葉への散布や高温時の散布では、薬害を生じることがあるので注意してください。

8. キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると、薬害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認してください。
9. ばらに対して薬害を生じるので、かからないように注意して散布してください。
10. 蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意して散布してください。
11. 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節してください。
12. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
13. 使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
14. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

△ 安全使用上の注意   

15. 誤飲、誤食などのないよう注意してください。
16. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
17. 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
18. 薬液調製時および使用の際は保護メガネ、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
19. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
20. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
21. 街路、公園などで使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した場所に保管してください。

-
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。
 - 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
 - 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
 - 使用量に合わせ調製し、使いきってください。空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。